



法学部座談会

◎司会

北原 博 先生



◎先生

村上 愛 先生

北原 本日は外国語特集ということで、さまざまな言語を学び、使っている先生方、外国語を身につけたいと思っている学生さんに集まっていただきました。本日はドイツ語を担当しております私が司会を務めます。まずは自己紹介からお願いします。

村上 国際私法を担当しています。外国語は、小さい頃から英語、大学からフランス語、大学院からドイツ語を学びました。あとはお遊び程度ですが、大学でラテン語にも触れました。

内山 敏和 先生
内山 民法を担当しています。外国語は研究で使うということで学んだわけです。研究で使う外国語は、英語、オランダ語、ドイツ語、アフリカーンス語です。文献を読むという形で使っています。

韓 永學 先生
韓 マスコミ論を担当しています。私にとって日本語も外国語です。大学に入ってから日本語を学びました。英語は、中学からカリキュラムに

従い勉強しました。フランス語は、高校から勉強しましたが、忘れました。韓国語は韓国で生まれたのでできます。

鈴木 光 先生
鈴木 担当は行政法・環境法です。外国語は、小さい頃からドイツ語と英語を学び、大学に入つて中国語とロシア語を始めました。

土島 愛夏莉 さん
土島 法学部3年です。今年の3月にカナダに英語留学。また、夏の2ヶ月間、同じく英語を習得する目的でフィリピンのセブ島に滞在しました。

渡邊 里穂 さん
渡邊 私も法学部の3年生です。この夏、イギリスに2ヶ月滞在しました。また、大学に入つてすぐ韓国語をちょっとだけ学んだこともあります。

北原 みなさん留学なり在外研修で海外での生活を体験されていますが、外国語を勉強してよかったですという体験を教えてください。

村上 英語に関しては、留学していたときに様々な国からきた留学生4人と一つ屋根の下で生活していて、みんな英語が母国語ではなかったのですが、英語をコミュニケーションツールとして毎日ワイワイ楽しく暮らせたのがとても良い思い出です。人との関わりというほかに、ニュースやドラマ、映画、小説など、英語がわかるとアクセスできる情報・娯楽が飛躍的に広がるなと思います。フランス語やドイツ語を勉強して良かったのは、英語を相対化するというか、それぞれの言語の特徴がより深く理解できるようになりました。

北原 英語相対化という話がありましたが、多様な文化を背景にした多様な言語があるわけです。みなさんにはぜひいろいろな言語を学んでいただきたいですね。

内山 そうですね。私は基本的に語学との関わり方は研究のために、話すというよりは、読む方が中心です。普通の民法学者なら、英語とドイツ語かフランス語ができるわけです。それに加えて、オランダ、アフリカーンス語ができると、アクセスする情報が増えますので、他の人とは違う武器になります。綴りが同じなのに意

◎学生

土島 愛夏莉 さん

法学部政治学科3年生

渡邊 里穂 さん

法律学科3年生



土島 愛夏莉 さん



内山 敏和 先生



渡邊 里穂 さん

外国語を 身にまとう。

味が全く異なることもあります。興味深いです。

韓 2年前に1年間在外研修でイギリスに行きました。ほかの国の言語を習得しておくとその国の人とつながりやすくなります。我々の仕事は、調べることが多いのですが、直接現地に調査に行かなくても、現地に友人があれば疑問点を確認したり、文献で読んだことの実情を友人に直接きくことができます。日本語については、住んでいるので当然身につきます。海外の人が日本を評価する場合に、海外から見ると実際日本に来て見るのとでは違いがあるはずです。私の場合は、両側から見ることができるので、総合的に日本を評価できると思います。語学を

北原 相手の言葉を知っていると親近感を抱いてもらいます。ドイツでは英語を話せる人が多いのですが、ドイツ語だとやはり対応が変わります。英語以外の言語を学ぶことは、様々な人とつきあう上でよいきっかけになるのではないかでしょうか。

北原 それでは次に、読者のみなさんも興味があると思うのですが、お勧めの学習法を教えてください。

村上 楽しくないとなかなか続かないで、好きになること、興味をもつことが第一だと思います。あとはなるべくその言語に触れる機会を

で勉強するのが一番効果的だと思います。会話が通じる喜びや幸せは何にも代えがたいものです。また外国で暮らしてみると、言葉のみならず多様な考え方や文化も学べますので、それも魅力です。国内ではボイスオブアメリカ（Voice of America）を聴いています。ロシア語や中国語など40種類以上の言語で放送されている米国政府の国営放送で、話題が大変豊富なため、聴いて飽きることはありません。またインターネットの国際テレビ電話（Skype）を使って国外の友達と積極的に会い、話すようになっています。面と向かって実際に言葉を交わすことで、通じる喜びと通じないもどかしさの両方を体験でき、それがさらなる勉強の原動力になります。

北原 光先生はネットをうまく利用されていますね。Podcastなども使えますね。

土島 私も留学は絶対に勧めたい。前は、英語はやらされてる感がとても強かったです。単語帳も無理矢理つくらされた。でも、興味がないと伸びないんです。それが、大学1年生のときチャドウイック先生の英語を取って変りました。あれが私にとって外国人に触れる原体験でした。留学が無理でも工夫をすればなんとかなる。たとえば、本学にはギフト（G.I.F.T.）というサークルがあります。とにかく興味を持つきっかけが大事。そして続けること。いまも、家では英語版のアニメをずっと流しっぱなししています。

北原 興味を持つことはとても大事です。

渡邊 留学はつべこべ考えないことが大切だと。英語ができなくて行ってしまえばなんとかなる（笑）。短い期間でしたが、それでもリスニングはけっこう上がりました。私も、日本に戻ってからは日本語字幕付きの海外ドラマの英語をいつも聴いています。

北原 外国語学習には量が必要です。大学の授業だけで身につくわけではありません。授業は学習のほんの一部です。やはり興味を持ってできるだけたくさん触れることが重要ですね。



韓永學先生



渡邊里穂さん



鈴木光先生

身につけることで得られるメリットは少なくないと感じます。

鈴木 先生方に同感です。外国語を勉強すると視野が広がり、物事を多角的・多面的に考える力を養うことができます。また外国人との交流を通じて、文化や個性の多様性と素晴らしさを知り、精神的に豊かな生活を送ることができます。私は英語と中国語を学んで本当に良かったと思っています。世界の公用語は英語と言われますが、全世界の約5人に1人は中国人なので、欧州や北米でも中国語を使う機会がたくさんあるのです。たとえばベルリン自由大学やコロンビア大学に資料収集に行った際は、中国語を話す図書館職員の方々に大変お世話になりました。言葉が通じると旅行も楽しいですし、美味しいビールもあります（※重要）。まさに良いことづくしです！

土島 語学の醍醐味はなんといっても人とつながれること。たとえば、フィリピンはタガログ語と並んで英語が公用語です。英語だけで買い物もできるし友達もつくれる。海外で英語を学んだことで、最近は外国人のお客様にも頼られることが増えました。

渡邊 韓国語でも英語でも、その国の言葉が少し喋れるようになるだけで親近感がぐっと増しますし、すぐに友達になります。

増やすこと。文章を読んだり単語を覚えたりといったことももちろん大事ですが、音読やリスニングで「耳と口を馴らす」のも重要だと思います。

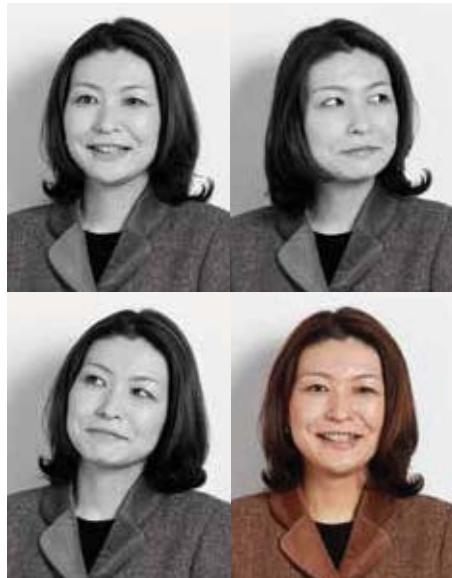
内山 基本的趣旨は同じです。私の場合は、外国語は薄く広く勉強している側面があります。1つの言語を深くやっているわけではありません。私がやっているのは同じ系列の言葉です。ドイツ語、オランダ語、アフリカーンス語は、非常によく似ています。1つを勉強するとほかの言語を学ぶ時の労力があまりかかりないので、日本語と韓国語も同じことが言えるのではないかでしょうか。自分の場合、まず、その国の民法の教科書、民法の条文を読んでみます。文法が分からなくても、民法の場合、内容を推測することができます。私も、好きなもので外国語学んでいるわけです。

韓 語学は、接する機会がないと忘れてしまします。私は、韓国に帰ると言葉が変と言われることがあります。自分が習得を目指す言語があれば、それを使う環境に身をおくことが近道です。使用する国に滞在するのがベストではないでしょうか。住めば、書かなくてはならない、聞かなくてはならない。話さなくてはならない。私は、留学を勧めます。

鈴木 留学には大賛成です。私も言葉は現地



司会：北原博先生



知らず知らずに使っている? ～「人々の方法論」

五十嵐素子

実践に参加しているときには、そこで自分が用いているやり方の知識や方法論といったものを意識することはほとんどないからです。しかし、新しくアルバイトを始めたときのことを想像してください。自分が何を今やればいいのかはもちろんのこと、今、先輩たちがそこで何をやっているのかですら、最初はわからなかったはずです。それが少しずつ周りのやっていることが理解できるようになり、どのように自分が関わっていけばいいのかも分かるようになるでしょう。このようにすべての社会的実践は、私たちが知らずに身に付けたやり方の知識やその実践に固有の方法論によって成り立っているのです。

適時に尋ねていきます。また、二人一組での航空管制のトレーニングにおいては、レーダー画面の各機の飛行情報を見ながら、未だその兆候は見えない「生じうる危険」を感じ取りながら、その危険の可能性をできるだけなくしていくことを、多くの言葉を交わすことなく協働的に行っていました。

このようなやりとりの洗練は、専門家たちがその現場に共有された推論やスキルや課題解決のための手続きを参照しながら行動していること、そしてそうした前提のもとに相手を観察・理解することによって可能になっています。

共有された「方法論」を見つめ直す

専門家の実践の洗練

「人々の方法論」?

今年の4月から法学部の「社会調査」を担当し、教職課程では「教育社会学」を担当しています。これまで、社会学の「エスノメソドロジー」というちょっと変わった名前の学問分野を勉強してきました。これは、「エスノ(ethno=人びとの)メソドロジー(methodology=方法論)」という意味で、「人々の方法論」を研究の対象に据える学問です。

例えば、私たちは、友人と会話をする、生徒として授業に参加する、アルバイト先の飲食店で仲間と働くなどの、様々な社会的実践に参加しています。そこでの私たちは、これらに参加しながらそこで何らかの役割を担い、何らかの手続きに従いながら、そこでの活動を成り立たせるような振る舞いをしています。こうしたときに私たちがすでに知っていて、行っているような、「やり方の知識」としての「人々の方法論」を明らかにする学問なのです。

といってもなかなかぴんと来ないかもしれません。それもそのはず、私たちは、普段そうした

私の研究の関心は、人々がどのように課題を共有しながら協働的な作業を行っているのか、そのためにどのようなやりとりをしているのかという点にあり、主に保育や学校教育における教師の実践上の工夫や生徒への関わり方を研究してきました。しかし、元来の好奇心の強さから(?)、保育園、幼稚園、小・中学校、大学以外にも、様々な現場での調査に参加してきました。水道管の配管工事、法律相談、航空管制のOJT(オン・ザ・ジョブ・トレーニング)などです。どの現場でも毎回驚くのは、専門家の実践が固有のやり方を有しているということと、彼らのコミュニケーションが職務上で高度に洗練されているということです。

例えば、配管工事のミーティングにおいては、共有された図面と配管方法の知識をもとにして、配管方法の指示示しは図面への指さしとジエスチャーによって非常に簡便になれることがあります。また、法律相談における弁護士は、相談者の話をただ聞いているというよりも、時間内に終わるように意識しながら、どのような訴えかをあらかじめ想定し、関係する法律と照らし合わせ、判断に必要な情報を相談の合間に

このような専門家の仕事に固有の方法論やコミュニケーションの仕方を研究によって明らかにすることは、彼らにとっては、自分たちのやっていることを見直したり、言語化したりすることになるため、業務の改善や専門家教育に役立てることができます。また言語化することによって、彼ら以外の人間が考えるべきことが多くあることも分かってきます。例えば二人がペアで業務をしていてミスが起った場合、そのミスの責任は二人のうちの一人、つまり「個人」に問えるものなのでしょうか。互いにやりとりをして一つのことを行っている場合、必ずしも個人に責任を問えないことが明らかになる場合もあります。

学生のみなさんの多くはアルバイトをしていると思います。せっかく多くの時間を職場で過ごしているのですから、その職場の人々が知らず知らずのうちに依拠している「方法論」をぜひ観察してみてください。そこからその職場の業務の改善や、もっと大きな社会の問題を考えるきっかけが生まれてくるかもしれません。



谷本 陽一

揉め事が専門

僕の専門は、民法です。特に履行期前の履行拒絶と呼ばれる問題を中心に研究をしてきました。契約の相手方が、履行期到来前に「履行をしない」と断言したとき、自分は何ができるかという問題です。契約したにもかからず「履行をしない」と言った相手方が非難されるべきだというのが、普通の感覚ではないでしょうか。ところが、日本の民法には、このような場面を想定したルールがありません。だから、仕がないと諦めるべきなのか、それとも、履行期前の履行拒絶を債務不履行などに含めて何らかの法的救済を認めるべきなのかといった問題が生じるわけですね。

ところが、なぜこの問題を専門にしているのかと問われると、実は、自分でもその理由を断言できません。できるだけ真摯に答えようすれば、流れに任せていたら、こうなったということになるでしょう。

流れ流れてたどりついた? ～「履行しない」という契約上の諸問題

喪失と発見

もっとも、その流れが平坦だったわけではありません。僕は、師匠の土地法の講義とレポートが切っ掛けで大学院進学を決めました。都市開発と住民生活の関係をどう捉えるか、それを私法はどう支え、あるいは変容させるか。それまで教科書的な法律学しか知らなかったのですが、法律学が現実と結び付いて、社会生活を円滑にしたり、逆に衝突を引き起こしたり、ときには社会生活を変容させたりすることに興奮を覚え、魅き付けられたのですね。

しかし、僕の大学院生活は師匠の「もう土地法の時代ではない」という言葉から始まります。そういうことは進路相談をした時に言っていただきたかったのですが、今更やり直しもできません。かくして、失われた動機と定まらぬ軸から、僕の研究生活はスタートしました。

研究テーマについてはその後も右往左往しましたが、ある時、オーストラリア人がイギリスの論文集にアメリカの法制度について書いた論文を読んで、契約関係の中絶という問題に興味を引かれるようになりました。中絶というのは、termination の訳語で、契約が所期の目的を達成できないまま挫折する場合の総称です。

その論文は、契約の相手方が履行を拒絶したと思われる場合には、普通は、相手方と交渉して問題の解決を図ろうとするわけだから、この交渉を促進するための制度が必要だという問題意識から出発し、交渉に実効性と安全性を持たせるために自分の側の履行を正当に停止できる権限、履行の停止 suspension を認めるべきだと主張していました。契約の中絶を規律するルールはあるが、そもそも自分の目の前にある事態が契約の中絶と言えるかわからない、そうしたときに、契約が中絶状態にあるか否かを探るための当事者の自主的な交渉を尊重し、それを支えるツールとして履行の停止という法制度を活用するという発想です。

言い換えれば、取引の実態と密接に関連し、取引の円滑化を促進しつつ、契約当事者の行動を法規範に汲み上げる仕組みがそこにありました。そう、これは僕が土地法に感じた魅力と通じ合うものです。

いつも準備中

ここで、だから履行の停止の研究をしていますといえれば話は早いのですが、厳密にいえば、僕の専門は、最初に言ったように、履行期前の履行拒絶であって、履行の停止ではありません。ズレたのは何故か。日本には契約の中絶という問題の捉え方がなかったためです。そのため、契約の中絶の典型例である履行期前の履行拒絶が從来どう扱われてきたか、また、外国ではどう扱われているかをはつきりさせ、議論の出発点を確認し共有することが、履行の停止を論じる下準備として必要になるわけです。

ともあれ、最近になって、履行過程論の研究（履行の停止を含む、契約当事者の行動を法的評価に取り込む研究です）にも着手することができました。徐々にではありますが、下準備とやりたいことが入り混った状態になりつつあります。こうして、動機と軸のないままに始まり、流れに任せるがままだった研究は、相変わらず流れに逆らわずに続いております。続きは、研究室で。

(法学部准教授：担当は民放IV)

基礎ゼミプレゼン大会インタビュー

高橋 理王（法律学科2年生）

澤田 遥（法律学科2年生）

岸 航大（法律学科3年生）

——基礎ゼミプレゼン大会について教えてください。

岸 法学部の基礎ゼミ生向けの大会で、出場するかどうかは任意、プレゼンテーマの選定も自由です。今年は8つのゼミから20チームが参加し、3ブロックにわかれています。予選会をして、各ブロック1位のチームで決勝戦をしました。

澤田 プrezentの内容と形式、質疑応答が採点の対象です。予選会では、実行委員2名、教員1名、参加した各グループが審査員となりました。

高橋 参加グループから参加費500円を徴収して、1位～3位には賞金や賞品をしました。

——実行委員会について教えてください。

岸 メンバーについてですが、僕は昨年度も実行委員をしていて、昨年度の大会に出場していた高橋君と澤田君は大会後に実行委員に立候補してくれました。他に3人加わって、メンバーは全部で6人です。その他にも、当日5人が手伝ってくれました。

澤田 活動内容としては、まず山本先生に責任者をお願いし、基礎ゼミ担当の先生に参加の意思を確認し、参加グループを対象に説明会を開催しました。あとは、教室の手配、当日の会場設営などです。

——なぜ実行委員になったのですか。

岸 自分自身1年生のときに優勝してプレゼン大会に興味があったんです。ゼミの草間先生からの呼びかけもあって、昨年度から引きつづき実行委員をやっています。

高橋 僕は昨年度の大会で優勝しました。夜遅くまで練習した努力が報われたので、大会にたいして強い思い入れがあり、立候補しました。

澤田 僕も昨年度の大会に参加して、大会をきっかけにゼミ生と団結できて楽しかったのと、他のゼミの発表を聞いてすごく良い経験になったので、今年度は運営に関わりたいと思いました。

し決勝にすすめるグループを増やせれば……。

澤田 今年度は20グループが参加してくれましたが、すごく良い大会なので、もっと参加ゼミ・グループを増やして法学部全体として盛り上げたいです。

高橋 まだまだ法学部をあげての大会になりきれていないので、学部全体を巻き込んで、先生主導でも良いので、もっと参加してくれると学生も盛り上がると思います。といっても、参加は任意なので、こちらから出てほしいといえないのが弱い部分ですが。



高橋 理王さん

——今年度の出場チームのプレゼンについて感想を聞かせてください。

高橋 優勝したチームのプレゼンが印象に残っています。「メディアは本当のことを伝えているのか」というテーマで、メディアから取材を受けた自分の実体験に基づき、今後メディアとどう付き合っていくべきかを問いかけるものでした。自分は過去の研究をまとめて発表するスタイルだったので、すぐさまタイムリーで斬新なプレゼンだな、と。

岸 全般に言えるのは、プレゼンの内容と方法がレベルアップしていることです。2年前の自分のときは、レジュメを配って原稿をみながらのプレゼンでした。決勝にすすんだどのチームも、発表内容を暗記して自分の言葉でアウトプットできていました。



澤田 遥さん

澤田 まだ1年生なのにレベルが高いなと思いました。ゼミで学んだ成果がきちんとまとめられていて、学んできたことが知識として身についているという印象でした。

——今後どのような大会にしていきたいですか。

高橋 予選ブロック1位のチームで決勝を戦いましたが、どのブロックも僅差だったので、もう少

し参加者が採点に納得できることも重要です。現状では、参加グループも審査に加わっていて、敵チームだから低く評価するということも残念ながらあるので、各ブロック2～3名の教員が審査してくれると、より客観的で公平な採点になると思います。

高橋 去年出場して面白かったのは、自分が先生にたいしてプレゼンするところです。せっかくなら、多少厳しくても良いから、先生からの意見・感想を聞けるとすごく嬉しいし、励みになります。

澤田 ゼミの先生以外の先生に自分たちの発表を聞いてもらって、褒めてもらったりすると、自分の経験としてすごく自信になりますね。

岸 将来的には、プレゼン大会が法学部の伝統行事になって、もっと注目を集めてほしいです。そのためにも、経済学部のようにゼミのイベントをとりまとめる「ゼミナール協議会」のような公認団体を作る必要があると思います。そのうえで、ソフトボール大会や基礎ゼミプレゼン大会以外の新たなイベントも考えてみたいですね。



渡邊 任さん×佐藤 紳一郎さん

法学部事務室 法律学科3年生



法学部法律学科3年生の佐藤紳一郎さんが、アジア・ベンチプレス大会74キロ級で準優勝しました。大会は、2014年9月12日から17日にキルギスタン・ビシュケス市で行われ、佐藤さんは、160キロをあげて銀メダルを獲得しました。

そこで、パワーリフティング部OBであり、法学部事務室の渡邊任さんに佐藤紳一郎さんへのインタビューをお願いしました。

渡邊 北海学園大学のパワーリフティング部は、元々は、ボディービル部で、その後、ウエイトトレーニング部に、私の卒業時にパワーリフティング部となった歴史ある部活です。はじめに入部のきっかけについて伺いたいと思います。私は、高校では、合唱部でグリーに入ろうと思っていたのですが、筋トレにも興味があり、4年生の先輩による強引な勧誘で入部しました。佐藤さんはいかがですか。

佐藤 1年生のゴールデンウィーク後に入りました。入部の時に「みんなが初心者」という敷居の低さと全国大会にたくさん出場している実績を知り、履歴書に書けるという思いもあり入部しました。また、こつこつ努力すれば、球技より裏切らないだろうと思いました。

渡邊 パワーリフティング部は、トレーニング施設もあり、全国的にも恵まれた環境で練習できるしね。部のOBも練習に来ます。もちろん、私も今でも練習し、大会に出場していますし、大会の引率もしています。

佐藤 OBつながりも、入部した良いところの1つです。OBとの距離感で続けられる部活はな

かなかないと思います。トレーニング施設でトレーニングしながら先輩とアドバイスしあいながら練習しています。

渡邊 定期試験や就職活動においてもアドバイスをいただきましたか。

佐藤 定期試験はもちろん、OBが市役所、警察、学園にも数多くいらっしゃるので、就活のアドバイスもしていただいている。

渡邊 部活と学業や就活との両立は難しいと思いますがどのように両立していますか。

佐藤 私は、授業については、出席しなければならない授業は出席し、テストが近づいたらトレーニングの量を少し減らして、試験期間中は全くやりませんでした。

渡邊 大会までどれだけの練習をしましたか。どのように工夫しましたか。

佐藤 空いている時間はすべて練習していました。OBに指導にきていただきたり、自分でも練習方法については大分工夫しました。色々な大会で出会った強い選手から練習方法について学んだりもしました。練習方法についての情報収集はかなり行っています。ネットで探したり、ツイッターで知った練習方法を期間を決めて色々と試しながら自分用にカスタマイズしてバージョンアップしました。同じスピードで伸びていける練習方法を考えました。普段のモチベーションを上げ、本番で失敗しないよう普段からとにかく練習をしました。練習は本当に疲れるので、どうやったらモチベーション保つことができるかを考えました。たとえば、1回重い練習をしたら重量を落としたりしました。モチベーションが落ちるとけがも増えるので気をつけました。や

はり、この競技は、自分との戦いです。自分は才能があるわけではないので練習の工夫、姿勢で勝負しています。

渡邊 佐藤さんは1年生の時から結果が出ていたのですか。

佐藤 1年生のお迎え試合では、1年生8人中6位でした。その時、くやしい気持ちになり、その後、1つのものを一生懸命やろうと思い部活に集中しようと決めました。先輩方も初心者からはじめて全国大会、世界大会に行っていたので自分ができる、がんばろうと思いました。市民大会、学生大会等色々と出場するうちに、自分と同じ体重、同じ階級で自分より強い選手と接して、全国大会で勝負してはずかしくない人になりたいと思い練習しました。本州の選手と交流して、試合にでるたびに気持ちが変わり力がわきました。

渡邊 競技をやっている醍醐味は?

佐藤 自分の成長です。次の自分が見えるところです。この練習方法をやったらどうなるか、試合が終わった後の気持ちはどうなるのかな等、考えながら探していくのがとても楽しいです。

渡邊 先輩後輩、OBとのつながり、大会で会った選手とのつながりは今後も続していくからね。

佐藤 色々な方とつながりを持ることは、競技をやっていてよかったことの1つだと思います。学生との輪だけではなく、競技を通じて色々な年代の人と話すことができます。

渡邊 競技を通じてできたつながりは財産だと思います。本日はありがとうございました。





西 えりか さん

(北陸銀行勤務)

本連載初の女性。しかもお若い!

2014年3月に法学部を卒業し、4月から北陸銀行に就職。現在は、麻生支店で主に「替」の業務を担当しています。たとえば、企業様の給与振込が滞りなく行われるように残高の管理をする仕事です。

お仕事に「法学部卒」は役に立っていますか?

「根抵当」と「抵当権」の違いなど、法学部を卒業していないければすぐには理解が難しかった。これで授業にはしっかり出ていたんです。ある法律科目の期末試験で——「ノート持ち込み可」の試験だったのですが——となりに座った見ず知らずの男子学生が、私がつくったノートのコピー持参で試験に臨んでいてびっくりしたことがあります(笑)。

働いてみて銀行業務は予想通りでしたか?

それが意外に想像と違っていました。在学中、「ミナトコムジュニア」を通じてOBやOGの方たちから事前に色々な話がうかがえましたから。当時、キャリア支援センターにいらした赤坂さん(現法学部事務室係長)にはとりわけお世話になりました!

勤めて分かった発見は何かありますか?

一番は「お札を手で数える機会が意外に少ない」という事実。銀行業務の現場では機械化が想像以上に進んでいて、誰よりも機械を信頼しています(笑)。どうしても手で数えなけれ

ばならないときは人を違えてダブルチェックが欠かせません。

富山が本店の銀行ならではの発見は?

ギャグが飛び交うのんびりとした職場だったということでしょうか。支店長もオヤジギャグ連発です。また、富山独特の訛がありまして、上司に怒鳴られても、語尾に「ちゃ」「ちや」がつくので、怒られているというより可愛くて……拍子抜けします(笑)。

希望の就職を叶えた西さんから在学生に何かアドバイスを?

就活はできるだけ早くスタートを、そして、学生のうちにできるだけ多く旅行を。自身は沖縄やディズニーランドを訪れたことがいまも懐かしいです。

ありがとうございました。最後に、次の法学部卒業生をご紹介ください。

では、次も若いOGで、北海道新聞社勤務の齊藤由希子さんをご紹介します。

(次号に続く)

2015年度 法学部各種入試一覧

社会人特別入学試験

Ⅱ期(面接・小論文)

募集人員: 2部法学部 面接 15名 小論文 10名
出願期間: 2015年2月13日(金)から
[郵送]21日(土) 消印有効
[窓口]23日(月) 正午締切
試験日: 2015年2月28日(土)

* 法学部1年次入学試験は、学部単位で募集します。所属学科(法律・政治)は入学後1年次末に決定します。

法学部編入学試験(3年次編入)

募集人員: 1部法律学科 推薦を含め20名
1部政治学科 推薦を含め10名
2部法律学科 若干名
2部政治学科 若干名

Ⅱ期(一般・推薦)

出願期間: 2015年1月23日(金)~2月2日(月)
試験日: 2015年2月21日(土)

法科大学院(法務研究科) 入学試験

●日程

出願期間: 2015年1月31日(土)~2月14日(土)
小論文試験、面接試験(法学未修者コース)
試験日: 2015年2月21日(土)
法律科目試験、面接試験(法学既修者コース)
試験日: 2015年2月22日(日)

大学院法学研究科入学試験

●修士課程

一般・社会人特例選抜入試
募集人員: 法律学専攻 7名
政治学専攻 5名

出願期間: 2015年1月15日(木)~26日(月)

試験日: 2015年2月20日(金)

●博士(後期)課程

一般・社会人特例選抜入試
募集人員: 法律学専攻 2名
政治学専攻 2名
出願期間: 2015年1月15日(木)~1月26日(月)
試験日: 2015年2月21日(土)

※学内推薦制度もあります。

[社会人特別入試] 入試部 電話 011-841-1161 / [法科大学院入試] 法学部事務室 電話 011-841-1161 (内線2420・2421)
[それ以外の入試] 法学部事務室 電話 011-841-1161 (内線2229) FAX 011-824-7729